

支持政党なし TOKYO

良識ある保守主義・情報公開
若い世代の育成に全力をささげる

都民代表:吉田つとむ(町田市議)

<編集発行>

支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



インターンシップ好評

オリンピックを中止しよう!

支持政党なし TOKYO 自治宣言

今年は町田市を含めて、大半の自治体で成人式が中止となります。楽しみにしていた人も大勢いたでしょうし、その日のために晴着を用意した二十歳の若者には気の毒な思いがしますが、新型コロナ感染拡大が留まるところを知らず、新年となってもますます、増大してきました。「緊急事態宣言」が東京都、及び隣接3県に提供され、飲食店などの事業者には営業の時間制限が厳しく適用されます。

他方で、今年の7月から開催する東京オリンピックの開催は、スポーツの祭典、記録の競争という参加選手を主体にした考えから、菅総理にとってはいわゆる「国威発揚」、小池都知事にとっては、「東京の威信」のためにと変わり、為政者の名誉が優先された思考に変わってきました。



建設工事中の国立競技場を新装の日本青年館の上層階から、自分で撮影した写真です。

東京オリンピックは、1年延期したこと、当初の予定を変更したこと、コロナ対応を次々と増大させることにより、当初提示された予算を大幅に上回り、際限がなくなっています。今、ここで状況を再考し、留まり、生活優先、新産業創出優先の視点に切り替え、「オリンピックを中止しよう!」のスローガンを提示します

オリンピックを中止しよう!②

日本と東京都はオリンピックを開催が不透明な状況下にあります。現実の政治は延期した施設の維持管理、事務局体制を長期化して、更に予算を投入しようとしています。私は、いち早く全面的に「オリンピックを中止しよう!」という路線に転換し、五輪の準備費用、開催費用を全て新型コロナ対策、取り分け医療従事者の負担軽減に振り向けるべきだと主張しています。つまり、これ以上の無駄金は一切出さないという立場で臨むのが、私を含めて誘致を進めた政治家の責任だと思います。

世界では、新型コロナの変異種の出現、拡大が新たな脅威になっていますが、今後日本はその進入を防ぐのであれば、当面の間、外国との交流を控える、人的流入を閉ざした鎖国政策をとらざるを得ないと考えます。観光や技能実習による外国人の流入を当面はストップする体制が欠かせないと考え、東京都はその人的配置を取り、国内流通で成り立つ地域経済のモデルを建てるべきだと思っています。その為には、この間「良識ある保守主義」の観点からも注目している、資本と労働が一体化した「ワーカーズコップ」による経営が、地域経済の中軸になっていくものと考え、その普及、支援に務めたいと思っています。

また、東京都はスウェーデンに匹敵する13兆円の予算規模を有する巨大自治体であり、私は、この規模の力を活用すれば、国内経済の中心としての地域経済を回せる体制を造り上げることが十分可能だと思っています。そのためにも、これ以上の出費は抑え、いち早く、経済構造面も含め、W I T H コロナ に対応できる体制への変化のかじ取りを行うことこそが、責任ある政治の姿勢と考えます。この点で、私は、現在の小池都政にはそういった先見性が足りないのではないかと思います。

- ★「支持政党なし tokyo」は、支持政党を持たない、持ちたくない人の意見を代弁します。
- ★「良識ある保守主義」は、権威を否定し、柔らかい思考にもとづいて議論をする立場です。

支持政党なし TOKYO

良識ある保守主義・情報公開
若い世代の育成に全力をささげる
都民代表:吉田つとむ(町田市議)



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



インターン生募集中

インターンシップの記録

第45期生が、第1期生を訪問インタビュー

吉田つとむは、学生のインターンシップを平成10年(1998年)からスタートし、20年以上の歴史の結果、現在の第45期生、第46期生まで連綿と研修生の受入を続けてきた数少ない政治家です。

この間の体験者は、その大半が民間企業に就職し、一定数が国家・地方公務員になっています。聞くところによると、初期の参加学生では、現在、部課長職を担う社会人も出ています。専門家では、弁護士が3人誕生し、自身の事務所を開設して活躍する人材も登場しています。人数は少ないのですが、小学校教師も、管理栄養士も現場で働いています。

ベンチャー企業の創設者(ユーグレナ社長)もあり、会社が急成長し、東証マザーズ上場後、2014年には東証1部上場を果たし、現在は、経団連審議員会副議長も務める人物も出ています。他方、女性では海外に雄飛して働く元研修生が幾人もいます。中には、TVや新聞に度々登場するフェアトレード分野の有名社長もいます。大半の元インターン生は、いわゆる有名企業に就職し、堅実に社会人生を送っていると聞いています。

アクリル板を挟んでの対談でした



インターンシップの研修

第46期生が、第34期生の就活体験を学ぶ

元インターン生の幾人かとは、今も長く交流しています。

例年、元の研修生が就活結果を直に伝えてくれることは私の楽しみの一つであり、いち早く内定が決まる学生がいる一方で、なかなか就職したい企業を決められない学生もあります。インターンシップを経験しているとはいえ、本人にとっては一生を決めることにもつながる人生の一大選択ですので、全員が真剣に取り組んでいます。

今年は全員が常時マスク姿もやむなしです



写真の例は、先輩の社会人が、現役の後輩に就活研修、社会人生活を語ってくれた時のものです。吉田つとむのインターンシップは、個別対応が特徴ですが、主催者本人+インターン生2名+元インターン生の社会人1名と言う、まさに「個別対応」タイプの研修のカリキュラムが体験できます。新型コロナの中、感染防止第一で、有意義な機会を設定しており、参加者に大好評を博しています。

- ★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、多数の体験者が実社会で活躍中。
- ★ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。
- 昨年春以降の研修では、特別の記念撮影を除いて、行動中は全てマスクをかけています。